

あのときの常呂・写真館

VOL 102

(1983年)

昭和58年12月7日

東浜地区多目的集会施設落成式・祝賀会

▶昭和59年1月号の「広報ところ」は、この落成式・祝賀会を「東浜地区多目的集会施設が11月に完成し、12月7日、東浜地区住民をはじめ、関係者約80人が出席して修祓式と新築落成祝賀会が盛大に行われました。同地区のこれまでの施設は、昭和30年に建てられたもので、老朽化が激しい上に十分な設備もなく、各会合などはほとんど個人住宅を利用するなど、十分な地域活動もできない状況でした。完成した多目的集会施設は、木造モルタル平屋建168.18㎡、内部には77.16㎡を中心に10畳の和室が2室、そして調理室も備えられています。これからは農・漁業の各研修会をはじめ、老人クラブの会合、婦人の趣味や料理教室など多方面にわたり活動可能」と紹介しています。

*注:「広報ところ」記事では旧施設建設を「昭和20年」と記載(間違い)

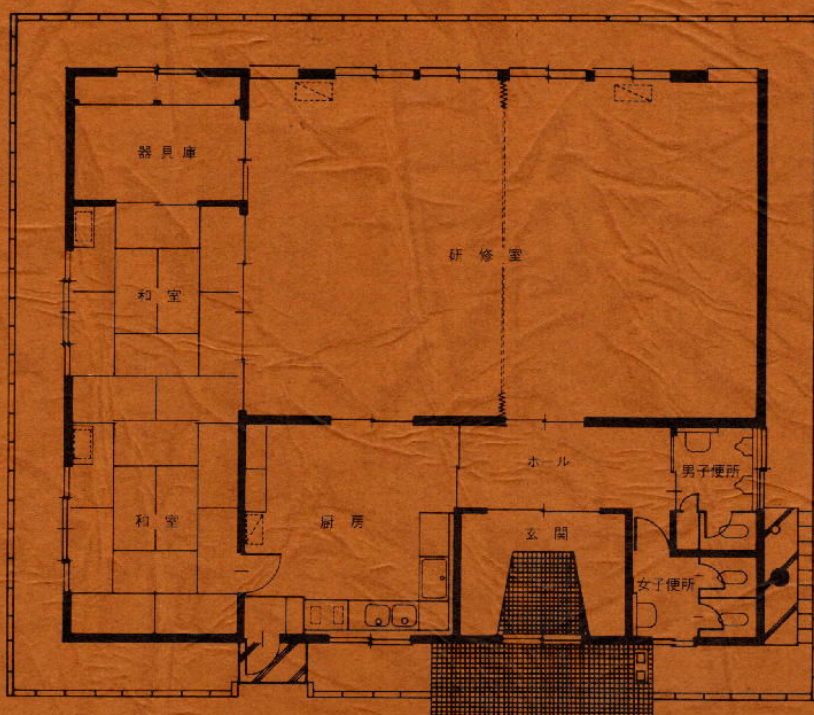


*次ページの写真を含め、落成式と修祓式



* 正面から見た東浜地区多目的集会施設

東浜地区多目的集会施設平面図



*左

施設の平面図
(落成式・祝賀会の
しおりから抜粋)



*馬頭観世音碑



*地神祭

*左の馬頭観世音碑は昭和35（1960）年6月に大島・東浜集落の一同が馬の慰霊供養のために旧大東会館裏に建立した石碑。右の地神は同じく大島・東浜集落一同が地域の守護神として昭和41年5月に木柱として建立し、平成4（1992）年12月に東浜地区住民の手によって地神祭として石碑で再建され、2つの石碑は東浜地区多目的集会施設敷地内の駐車場近くにあります。

*下の写真は、昭和30年建設（常呂町百年史）の大東会館（東浜・大島部落会館）



●「東浜」と「大島」の地名

東浜は、明治34年に現在の東浜を含め、約400町歩が常呂駅通放牧地に指定され、50～60頭の牛馬が放牧されていましたが、昭和5年6月に駅通が廃止。その後、昭和11年に放牧地が故人に払い下げとなり、入地が始まりました。昭和16年の字名地番の改正によって、地名が「東浜」となりました。

大島は、昭和20年の終戦後、大阪府、福島県から相次いで東浜地域に入地した人たちの集落で、昭和21年に大朝の「大」と福島「島」をとって「大島」と称しました。

『常呂町史』から抜粋

昭和56年4月からは町内区の再編により、2つの地域は「東浜」に統一されました。

●大東会館の位置

大東会館は、東浜地区と大島地区両地域の住民が利用する会館でした。『常呂町百年史』の年表に昭和30年とあるのみで詳細は不明です。東浜地区多目的集会施設の位置は、国道238号線沿いの常呂漁協製氷冷凍工場・直売所を左手にして網走側に200mほど行った右手にある「東浜多目的集会施設」の看板の奥にあります。また、かつての大東会館は、東浜多目的集会施設の看板からさらに網走側へ150mほど先にある「常呂漁協 漁村センター」看板から50mほどの右手に入り、50mほどのところにありました。現在も廃屋ながら原形をとどめています。

